

2025年度 農場実習アンケート結果

農場実習後、参加者に実習から「学んだこと」「考えの変化」「満足度」に関する17の設問について5段階評価でアンケート調査を行った。

調査対象者

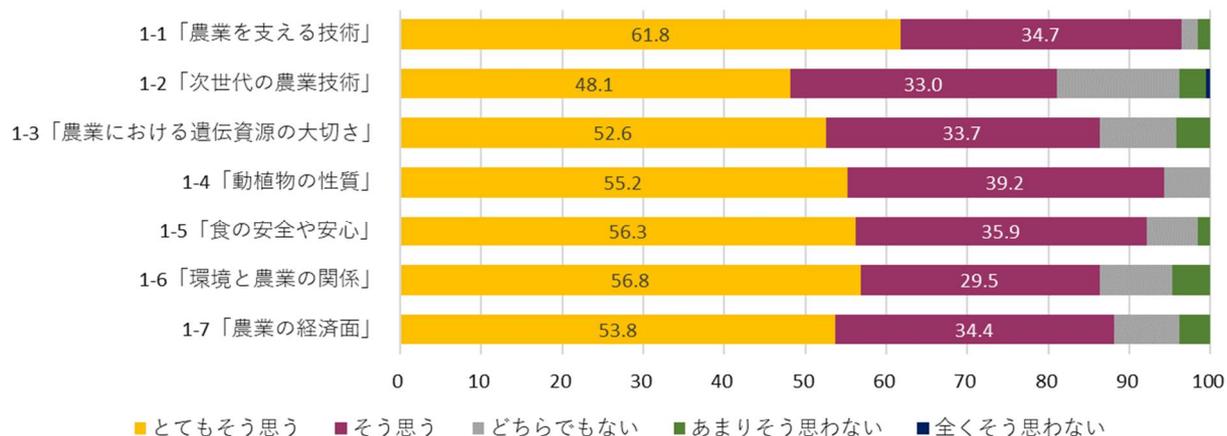
アンケートの回答者は206名（うち教員2名）で、そのうち、留学生は16人、男女比はやや女性が多かった。今年度も農学系から栄養系まで幅広い分野の学生が参加した。学年別に見ると、3年生の参加が最も多かった。

学年	n	割合%		n	割合%	
1年生	17	8.3	所属	国内	190	92.2
2年生	25	12.1		国外	16	7.8
3年生	91	44.2	性別	女性	109	52.9
4年生	37	18.0		男性	92	44.7
5年生	23	11.2		無回答	5	2.4
6年生	7	3.4	学部	農学系	22	10.7
修士1年生	1	0.5		生命・環境系	92	44.7
博士1年生	1	0.5		食・栄養系	31	15.0
その他	2	1.0		獣医系	39	18.9
教員	2	1.0		経済型	5	2.4
合計	206			工学系	0	0.0
				その他	17	8.3

実習参加による学習効果

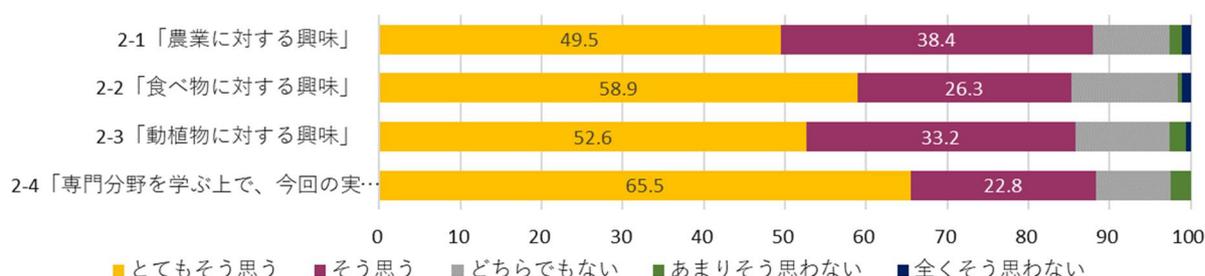
「とてもそう思う」「そう思う」「どちらでもない」「あまりそう思わない」「全くそう思わない」「今回は学んでいない」の6つの解答のうち、206の全ての回答から「今回は学んでいない」を除いた数を総数とした。

「実習参加による農業や食に対する学びや考えの変化」に関する7つの設問に対して、全体の約81～96%（昨年度72～93%）の学生が「とてもそう思う」「そう思う」と回答をした。特に「農業を支える技術」に対する満足度は高く、こちらの伝えたい内容が学生に伝わっていると考えられる。スマート農機について学んだ学生に関しては「次世代の農業技術」に関する満足度は高く、「肉牛の肥育や繁殖におけるスマート農業のメリットが非常に印象に残った」など多くの感想が得られた。また、昨年度に比べて、実習で行っていない内容については「今回は学んでいない」と選択する学生も増えたことから、自分達が実習で何を学んでいるのかが理解できていると考えられる。



実習後の考えの変化

実習後の考えの変化に関する4つの設問のうち、「農業」「食べ物」「動植物」に対する興味が湧いたと回答した学生は全体の約85～88%（昨年度83～92%）であった。8割以上の学生が、農業に対する興味が増したと感じていた。また、「専門分野を学ぶ上で、今回の実習が役立つ」の設問には、「とてもそう思う」「そう思う」が全体の88%（昨年度92%）となり、専門性を学ぶ上でも有意義であったと考えられる。例えば、獣医系の学生からは、「採血や直腸検査など基本的な手技が一通りできたこと」「去勢手術をした際など、希望者だけではなく、全ての人が何かしらの作業ができるようになっていたこと」などの多くの感想が寄せられ、学生たちにとって有意義であったことが伺えた。



実習への満足度

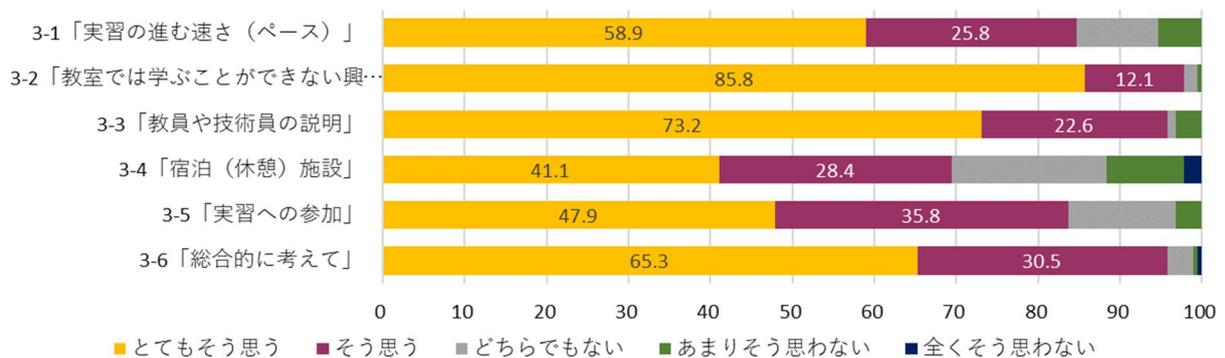
毎年の課題である「実習の進む速さ（ペース）」については、全体の84%（昨年度87%）と多くの学生が無理なく参加できたと回答していた。以前に比べてやや減少しているが、概ねゆとりのあるペースで実習ができていると考えられる。しかし、夏に行った実習に参加した学生からは、「もう少し休憩がほしい」「体力的にしんどかった」などの声が多くあったことから、その日の気温と学生の様子を見ながら、実習のペースや内容を柔軟に対応していく必要があると言える。一方で、少数ではあるが「もう少し作業をしたかった」などの要望もあったことから、実習時間の短い場合には、密度の濃い実習内容を意識する必要があると考えられる。ある大学の实習では、「説明時は座って話を聞いたかった」などの声も複数あり、教員や技術員の説明が長時間になる場合には、学生を座らせ

る対応をとることが望ましいと考えられる。

また「教室では学ぶことができない興味深い体験をすることができた」と「教員や技術員の説明は十分に理解できた」の満足度が約98%と96%（昨年度99%）と非常に高く、「実際に農作業や牛を触れることができた」「実際にやったからこそ大変さがわかった」「説明が分かりやすく、質問に対する答えも丁寧だった」など、参加した学生へ満足できる経験や学びを提供できたと考えられる。

「宿泊（休憩）施設に満足している」は、例年と同様、他の設問に比べて満足度が特に低かった。施設の清潔感や虫の発生、シャワーが狭いなど多くの意見があった。しかし一方で、「施設がきれいだった」「清掃が行き届いていた」などの声も多数あったことから、実習前の施設内の清掃に差があることがわかる。特に実習が続く夏シーズンは、事前に使用していた学生たちに丁寧な清掃を促す必要があると感じた。「二段ベットの階段が不安定で怖い」との意見に関しては、安全性を考えて今後対応が必要であると考えられる。

「総合的な満足度」では約96%（昨年度96%）の学生が「とてもそう思う」「そう思う」と回答しており、実習に対する評価が非常に高かったと考えられる。



自由記述で挙げられた改善点・要望のまとめ

実習内容と施設に関する改善点は、大きく分けて4つに分かれた。

「実習内容に関する改善点」

■ 音・聞き取りにくさ

空調服のファンの稼働音が原因で、先生や技術員の指示・解説が聞き取りにくいという意見が多かった。特に後ろの方にいる学生に声が届かないケースがあり、拡声器やスピーカーの使用、あるいは説明の際にはファンを止める、室内へ移動するといった工夫をしてほしいという具体的な提案もあった。

■ 暑さ・体力・休憩

気温が高い中で屋外作業や、立ちっぱなしでの長時間の説明に対して、体力的に厳しいとの声があった。休憩時間の確保や、涼しい場所での説明、あるいは説明時は座らせるとなどの声掛けを希望す

る意見がみられた。日中の暑さを避けるためのスケジュール調整や、待機時間の短縮についての要望も出ていた。

■ 実習日数・時間配分

2泊3日の日程については概ね妥当であるという意見があった一方で、スケジュールが過密でひとつひとつの実習を丁寧に行う時間が足りなかったという声もあった。反対に、効率化すれば2日に短縮できるのではないかという意見もあり、実習ごとの時間配分や作業の密度を再検討してほしいという様々な意見が得られた。

■ 説明資料・事前の準備

実習内容や準備すべき服装について事前に知りたかったなどの、事前情報を希望している学生が複数いた。実習中についても、言葉による説明だけでなく、イラストや写真を用いた図解（摘果の基準や品質比較など）があれば、より理解がスムーズになったのではないかという意見もあった。

【宿泊施設について】

■ 2段ベッド・寝具

2段ベッドのハシゴの形状やつくりについて、登る際に足が痛い、あるいは固定が弱く不安定で怖いといった声が複数寄せられた。また、寝具に関しても、敷布団や枕が硬いことで腰痛を感じた、十分に身体を休めることが難しかったという意見が出た。ハシゴの安全性の確認や、寝具の硬さの調整が望まれていた。

■ お風呂・シャワー・脱衣所

実習人数に対してシャワーの個数が足りず、待ち時間が発生していることへの指摘があった。浴槽がなくシャワーのみである点について、疲れを癒やすために湯船が欲しかったという要望もみられた。また、脱衣所が暑いことや、排水溝の清掃状況などの衛生面、着替えスペースの狭さについての改善を求める意見があった。

■ 通信環境・設備（コンセント・WiFi）

施設内にWiFi環境が整備されていないことについて、不便を感じるという意見が多くあがった。また、室内のコンセントの数が少ない、あるいは設置場所が不便な位置にあるため、スマートフォン等の充電が満足にできなかったという声もあった。

■ 衛生面（ホコリ・虫・清掃）

部屋のホコリっぽさによりアレルギー症状が出たという声や、掃除道具自体の汚れ、建物内のホコリが気になったという意見があった。また、キッチンや室内への虫の侵入についても指摘があり、網戸の点検や虫除けの設置、定期的な清掃の徹底、清潔な環境を保つことを希望する声が多かった。